

地域づくりレポート < 05 - 2月度レポート >

テーマ：「港湾<酒田港長期構想(中間報告)>」に関する意見

報告者：黒沼貞志

今回の指定テーマがより具体的材料で、それに対する意見を求められておりますので以下に簡潔に記載させていただきます。

提供資料がA3にて24ページに亘る情報量ですから特に興味とか疑問とか印象に残った部分に限定する点承願います。

1. RE - 1ページ

目標年次：長期構想、港湾計画の目標年次：

この変化の激しいスピードの時代(ドッグイヤーからラットイヤーと言われて久しいですが)ではあっても長期構想、中期構想などが必須であることは自明です。がしかし、昨今のインフラ計画に関する見直しの社会の動向を考えた場合、せめて5or10年単位のインターバルのマイルストーンを含んで、且つ、その節目に見直しを必須条件としその見直し要領まで盛り込んだ構想計画が必須と思っておりますが、残念ながらその様な記述をこの中間報告に見つけられませんでした。

また、その様な長期計画策定方針・コンセプトも表現があってほしいと感じました。

2. RE - 11ページ～15ページ

酒田港を取巻く将来の環境

30年後の庄内地方の生活圏及び酒田港の姿の前提として4～10ページに「山形県及び酒田港の現状」がありそれを踏まえての将来の環境となっています。

現状把握は様々な方法にて情報収集されておられておりますが、世界特に東南アジアの人口の将来を抜きにして、海外からの物流の拠点としての酒田港の将来像はフォーキャストできないと思います。

人口の変化 食料 そのベースとなる水・・・まで論及した上での将来像がほしいところです。

あるデータによりますと20年後の日本の人口は減少していきますが、逆に今開発途上国の人口は急激な増加がフォーキャストされていて、現在日本に食料を輸出している上記国々は自国民への供給で手一杯で輸出など出来なくなるのではといったデータに裏打ちされた想定がなされております。

水のことで、日本の水は自給できていると考えている人が大半かと思えます。しかし海外で日本の食糧生産に使用している水にも考えを巡らせば、自給できているということはある種の幻想かもしれません。

食料の輸入が出来なくなった時点では生産するためのリソース(人々、その土地、必要とする水、エネルギー・・・)がクローズアップされるはずで。

以上のようなポイントにも言及した「将来の環境」を期待したいところです。

3. RE - 16ページ～

物流検討部会

小職の個人的考えでは高度消費社会下では「モノ」の動き = 物流は減少、「情報」の動きは増加という大まかな傾向と理解しております。

* 酒田港での「モノ」の輸出も減少傾向

* 酒田港での「モノ」の輸出も減少傾向

となるはずです。

3Rの視点での可能性の一つとして、環境ビジネスの新たな着想は無いでしょうか？

現在産廃の一部の輸出や国内他県への配送をされているようですが、発想を切り替えてかつての石油関連産業（原油を輸入して精製による付加価値をつけて諸産業の原料資源供給など）の環境産業バージョンといった考えは突飛でしょうか？

前のレポートでも提案したような気がしますが「エコ・ミックス」構想です。

これからの時代（ドッグイヤーからラットイヤー）、他にない企画を先駆けて実行していくことが生残りの近道とっております。

4. RE - 23ページ～

リサイクル検討部会

* 対象資源の活用技術レベルの視点の多様化の視点と検討が必要では有りませんか？

例えば、次のような分類・整理・評価を実施した「技術マップ」

一次加工レベル（木屑のペレット化、堆肥化・・・）

二次加工レベル（廃油のBDF化、バイオマスのBSF化（発電所の燃料）・・・）

三次加工レベル（バイオマスのエタノール化（化学・電気・電子・半導体メーカーの原料）・・・）

* 活用対象資源の量（例えば山形県内年間未利用バイオマス = 52万トン/年 :17ページに記載されている数値）に固定されない発想に立てると上記「エコ・ミックス」構想などに展開できるのではないのでしょうか？

* さらにバイオマス活用という例にて具体的に言えば

【バイオマス活用エコ・ミックス構想】

・バイオマス資源の国内外からの輸入基地としての酒田港

・バイオマス資源の加工・再利用・生産工場（企業誘致ではなく地域密着地元企業の育成・活用）

・バイオマス活用3R資源の国内外への輸送基地としての酒田港

以上